

71年前のあの日の熱線、爆風を浴びた建物は、時がたつとともに姿を消しています。老朽化に加えて耐震基準がどんどん厳しくなり、保存、活用するのに費用がかかるようになっているのが要因です。

旧陸軍被服支廠(広島市南区出汐)と広島大旧理學部1号館(広島市中区東千田町)は、それぞれ広島県と国、広島市が所有管理しながら、長い間そのままになっています。ジュニアライターは今回、この二つの建物について、活用策を考えました。

旧陸軍被服支廠は、鉄筋で造られた日本で最も古い建物の一つです。「日本一長いれんがの家並み」ともいわれています。広島大旧理學部1号館は、市内の中心部「知の拠点」としての機能が高まる活用策が求められているといいます。

第37号

被爆建物 こう使う

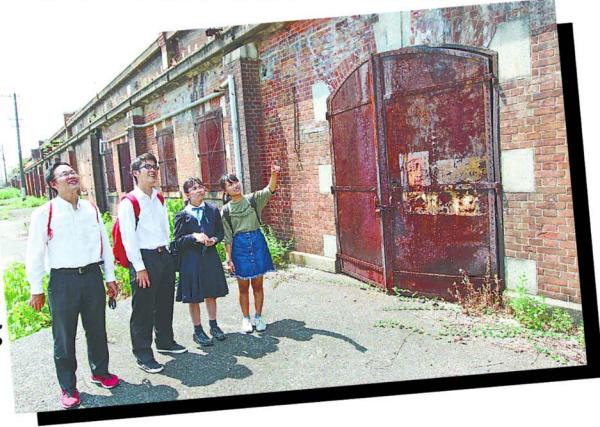


ヒロシマの10代がまく種

学校生活充実させる設備

旧陸軍被服支廠は周囲に高校や中学校が多数あり、子どもたちが立ち寄りやすい場所にあります。この利点を生かし、小・大学生を対象にした施設を設置しました。学校生活を送っている中で「どのような施設があったら便利か」や「被爆建物だからこそできる事はないか」などを、同じ世代の私たちが考えました。4棟あるので建物ごとにコンセプトを決めました。2棟は「学び」です。1棟は「原爆・戦争と子どもたち」に特化した資料館になります。被服支廠の役割に加え、団体説明、学習、広島の名産品や地産地消料理を販売したりできます。もう1棟は、静かに、熱筆しています。

(高3岡田春海)



広島大旧理學部1号館

広島大旧理學部1号館は、広島文理科大本館として1931年に建てられました。鉄筋造り3階建てです。建築当時はE字形でしたが、2年後に増築されて今のE字形になりました。

45年6月には建物の一部が、中國地方総監府(本土決戦に備え、本土が分断されても対応するための行政機関)として接收されます。爆心地から約1.4kmの地点にあり、原爆で建物は外郭を残して全焼しました。校舎内にいた学校関係者のうち36人が即死、71人が重軽傷を負ったそうです。

翌年9月に講義を本格的に再開。49年5月に学制改革によって広島大旧理學部校舎として使われるようになりました。理學部が東広島市に移転した91年から今まで、そのままになっています。

(高1岩田央)

「文化」の館

◆スタジオ

今ある1部屋(約30m×約24m)を4~8区画にする利用は学生優先。平日の昼は一般(カラオケ、音楽教室)利用を見込む

かな環境で勉強できるように自習室を設置したり、図書館や書店を設けたり

します。

「文化」棟は、バンド演奏やダンスができるようにします。防音の部屋を、多くの子どもが利用できるようにします。「ザ・広島」は、主に修学旅行生向けです。国道2号に近く、建物の横には大型バスが止まれるスペースがあります。

斯があつて便利です。

ここ1カ所で、原爆・戦争について

学び、広島の名産品や地産地消料理を

買つたり食べたりできます。

（高3岡田春海）

旧陸軍被服支廠の外観を見る

「学びと食のフロア」

- ・被爆体験講話
- ・平和関連イベント
- ・絵本読み聞かせ
- ・会議など

3階



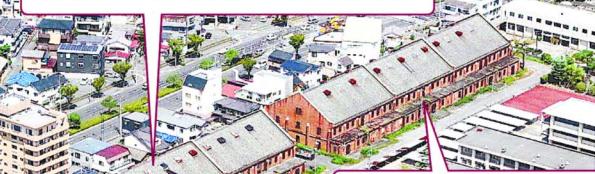
「遊びと文化的フロア」

- ◆子ども図書館
- 絵本や平和関連の本
- 平和関連のDVDを見られる
- ◆フードコート
- 地産地消メニュー
- 離乳食もある
- ◆絵本のキャラクターショップ

2階

「学びの館 パート2

◆自習室 ◆図書館 ◆学生向け書店



「学びの館 パート1」

- ◆原爆・戦争と子ども資料館
- ・学徒動員・集団疎開
- ・被服支廠

「ザ・広島」

- ◆レストラン
- 広島の学生が考案した地産地消メニュー
- ◆グッズショップ
- 広島東洋カープ、サンフレッチェ広島、JTサンダーズ、広島ドラゴンフライズなどの商品
- ◆雑貨・名産店

旧陸軍被服支廠

旧陸軍被服支廠(爆心地から約2.7km)は、鉄筋造り3階建てで、外壁は赤れんが造りです。長さ約91mの棟が南北に三つ、長さ約106mの1棟が東西、とL字形に並んでいます。

1913年に建設。被爆時も火災は免れました。しかし、西に面した3棟の鉄の扉は爆風で変形。今もその痕跡をとどめています。被爆直後は臨時救護所として多くの被爆者が訪れました。戦後は広島高等師範学校(現広島大)や広島工業高、日本通運が使っていました。

これまで博物館や美術館にする案がありましたが実現せず、現在は使用されていません。最大震度6弱を観測した2001年3月の芸予地震での被害はありませんでした。窓部分にペニヤ板が張られていることもあります。建物内は暗く、閑散としていました。広島県財産管理課主査の伊藤洋子さんは「広島県民みんなが納得するような活用方法が見つかってほしい」と話します。(中3溝上藍)



平和や郷土文化

学べる拠点に

家族連れにも憩いと交流

広島大旧理學部1号館の近辺は子ども遊ぶ場所が少ないと考え、赤ちゃんから小学校低学年の子どもとその家族までを対象とした再利用案を挙げます。小さな頃からヒロシマの歴史と建物に触れ、平和への思いを持つほしいと考えました。

まず、屋外についてです。中央の建物の増築部分を撤去し、アスレチック施設を作ります。やけどを防ぐため

施設を作ります。ソーラーパネルを設置し、太陽光で発電した電力を使用します。

屋内は、階層ごとにテーマを設けます。1階は遊びと文化交流の場。木の

ソーラーパネルを設置し、太陽光で発電した電力を使用します。

3階は今的小部屋をそのまま使い、被爆建物の雰囲気を生かした利用にします。その他、絵本のキャラクターグッズショップや、離乳食や地産地消メニューの商品を置いています。

3階は今的小部屋をそのまま使い、被爆建物の雰囲気を生かした利用にします。会議や被爆体験講話、平和関連イベントができます。広島の発展や平和の発信へ貢献したい、という願いを込めました。(高3中原維新)



ふるさと納税や「たる募金」活用

I PH工法で費用減

改装費捻出と補強案

二つの被爆建物の活用策は、高3中原維新、岡田春海、高2山本菜々穂、高1岩田央、中3溝上藍、中2川岸言織、中1森本袖衣が考えました。

二つの被爆建物の活用策は、「被爆の証人」である被爆建物。単なるモニュメントではなく、核廃絶と平和な社会の実現を訴える「ピース・シーケンス」が「ピース・シーケンス」です。世界中に笑顔の花をたくさん咲かせるため、中学1年から高校3年までの30人が、自らテーマを考え、取材し、熱筆しています。